

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	4年	2	選択
担当教員			
下山 寿子・菅原 亮芳			

授業のねらい（概要）	履修履歴の把握（※1） ○ 学校現場の意見聴取（※2） ○ 教職課程専任教員2人体制で行う。 (1) 演習形式で行うが、講義、資料作成の上で役割演技、事例研究、模擬授業、現地調査（フィールドワーク）、個人面談等により進める。(2) 「履修カルテ」等を参照し、授業内、個別的に確認し補完的指導する。 (3) 最終授業日に「履修カルテ」を提出。将来教員になる上での意欲と志の明確化、教職科目の履修状況、教育実習の振り返りを通して、不足している専門的知識・技能を補完する。4年間の総まとめであることを自覚する。 (4) 「履修カルテ」に基づく最終的自己確認を行う。 [テーマ] 「教員としての最小限必要な資質の能力の全体を理解し、身につけているか」
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(授業の進め方の説明等) 予習(時間)：シラバス熟読(30) 復習(時間)：本科目の内容を確認(30)</p> <p>第2回 履修カルテの検討・教育実習の振り返りと課題の発見。①(担当教員:菅原・下山) 予習(時間)：履修カルテの記入(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第3回 履修カルテの検討・教育実習の振り返りと課題の発見。②(担当教員:菅原・下山) 予習(時間)：履修カルテの記入(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第4回 教員の使命感・責任感・教育愛・人間愛についての資料を基に討議。①(担当教員:菅原・下山) 予習(時間)：教科書第3章の熟読(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第5回 教員の使命感・責任感・教育愛・人間愛についての資料を基に討議。②(担当教員:菅原・下山) 予習(時間)：教科書第3章の熟読(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第6回 社会性・対人関係能力についての資料を基に討議と役割演技。①(担当教員:菅原・下山) 予習(時間)：教科書第3章の熟読(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第7回 社会性・対人関係能力についての資料を基に討議と役割演技。②(担当教員:菅原・下山) 予習(時間)：教科書第6章の熟読(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第8回 生徒の理解とHR経営についての資料を基に討議と役割演技。(担当教員:菅原) 予習(時間)：教科書第6章の熟読(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第9回 フィールドワーク(現地調査)①学校現場の見学・調査。(担当教員:菅原・下山) 予習(時間)：教科書第5章の熟読(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第10回 フィールドワーク(現地調査の振り返り)②学校現場の見学・調査のまとめ。(担当教員:菅原・下山) 予習(時間)：教科書第5章の熟読(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第11回 集団指導・個別指導方法と教育相談についての役割演技。(担当教員:下山) 予習(時間)：教科書第4章の熟読(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第12回 教育評価についての資料を基に事例研究。(担当教員:下山) 予習(時間)：教科書第3章の熟読(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第13回 教科内容等の指導力の資料を基に模擬授業と相互批評。1(担当教員:菅原・下山) 予習(時間)：教科書第4章の熟読(120) 復習(時間)：学習内容のまとめ(120)</p> <p>第14回 教科内容等の指導力の資料を基に模擬授業と相互批評。2(担当教員:菅原・下山) 予習(時間)：実地調査資料熟読(120) 復習(時間)：レポート作成(210)</p> <p>第15回 「学びの軌跡の集大成」：「教員として最小限必要な資質能力の全体を理解し、身につけているか」 予習(時間)：総復習(60) 復習(時間)：論文作成(210)</p>
授業を通して身に付けることができる能力(DP)	商学部 1. 職業人的倫理観を持ち、組織で協働できる能力 3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力
到達目標	(1) 学校現場における職務等を把握し、教員が体得する専門的知識・技能が学生に統合されているか、教員として必要な実践的資質能力が形成されているかを確認する。(2) 教員に求められる「教員の使命感・責任感・教育愛等」、「社会性・対人関係能力」、「生徒理解・理解」「学級経営」、「教科内容等の指導力」、

	「学校現場における校務・生徒・進路指導、HR指導の取り組み」等について、十分な自覚と理解と表現力の定着を図る。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	提出課題等については、添削等行い指導・助言し必要に応じて返却する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教職を目指す学生としての自覚をもち、積極的な授業参加が求められる。 ・基本的には講義形式を中心とするが、テーマにおいてはグループ学習やマイクロティーチングなどを導入する場合もある。 ・プリント教材を多く用いるので当該科目独自のファイルを作成すること。 ・新聞や雑誌、TV等での教育関係記事や番組に留意すること。 ・シラバスや配付資料を読み、予習・復習を行うこと。
成績評価の方法・基準	具体的な到達目標にあげた項目を身に付けたかどうか試験やレポートを通じて確認する。また、(1) 学習指導案の作成 (20%)、(2) ②HR指導案の作成 (20%)、(3) 教育問題とその対応 (20%)、(4) レポート (40%) で評価する。
教科書	書名：教育実践演習ワークブック 著者名：西岡加名恵他 出版社：ミネルヴァ書房 価格：2000円
参考書・教材	<p>【参考書】書名：中学校学習指導要領 著者名：文部科学省 書名：高等学校学習指導要領（平成30年3月） 著者名：文部科学省 書名：生徒指導提要 著者名：文部科学省</p> <p>【教材】各年度の「検証・教育実習」と「省察集」を常に携帯すること。</p>
備考	実習科目
教員との連絡方法	オフィスアワー